

令和3年第2回魚沼市議会定例会  
一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
7月15日（1日目）			
1	14	佐藤 肇	一問一答
2	5	浅井 宏昭	一問一答
3	11	佐藤 敏雄	一問一答
4	4	星 直樹	一問一答
5	6	星野 みゆき	一問一答
6	2	横山 正樹	一問一答
7	12	遠藤 徳一	一問一答
8	3	佐藤 達雄	一問一答
7月16日（2日目）			
9	9	富永 三千敏	一問一答
10	15	高野 甲子雄	一問一答
11	10	志田 貢	一括
12	7	大桃 俊彦	一問一答
13	17	本田 篤	一括
14	8	大平 恭児	一問一答
15	13	渡辺 一美	一問一答

※一括：一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。

※一問一答：初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

## 令和3年第2回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

令和3年7月15日（1日目）

### 1番（議席14番）佐藤 肇 一問一答

【メモ】

#### 1. 医療職員用宿舎整備について問う

かねてから魚沼市医療公社、市立小出病院に医療職員用宿舎が必要ではないかと問題提起してきた。

このたび、恐れていた病院内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、看護師など一部職員が自宅に帰れない事態が発生した。小出病院では緊急事態を宣言して、外来診療を休止し、必要な人員を確保して事に当たってきた。

- (1) 小出病院には、当直医師等のために4室の個室が用意されているが、病棟看護師などはどのような対応を取っていたのか。連日の勤務が続き、個室で十分な休養が取れる状況にはなかったものと思われるがどうか。
- (2) 大規模災害時には地域中核病院である基幹病院と連携し、小出病院でも中等症までの患者を受け入れることになる。その際、外部からの医療支援も期待しているものと思うがどうか。また、その際の宿舎はどう考えているのか。
- (3) 小出病院には地域医療研修のため、1年を通し研修生が来ているが、宿舎はホテルで対応している。病院の近くであれば、勤務が終わってからも医師等と懇談ができ有意義なものとなると考えるがどうか。
- (4) 改めて問うが、将来の人材確保のための投資として、また、危機管理の施策として市立小出病院の直近に医療職員用の宿舎整備は必要と考えるがどうか。

#### 2. 地域防災計画について問う

地域防災計画の最大の目的は、市民の生命を守ることにある。

- (1) 災害初動時には、市職員も各方面に人員を出さなくてはならず、避難者移動などの支援は専ら自治会や罹災者個人に委ねられている。避難に時間を要すると思われる高齢者等に対し、自主避難を促すためには、避難所の受け入れ態勢を整えておく必要がある。現状はどうか。
- (2) ハザードマップの浸水範囲内にある公共施設は避難所から除外され、指定避難所が遠くなって歩いて避難できないとの声を聞く。各自治会、町内会等と協議を行い、高齢者世帯に対する声かけ、地区集会所などから地区指定避難所までの交通手段の確保を進めなければならないと思うがど

- うか。
- (3) 市では、避難所用に段ボールベッドやパーティション、発電機の購入を進め、避難所環境づくりに着手した。ほかにも、飲料水、食料、毛布など備蓄を進めているが、十分な数量となっているのか。不十分と感じているがどうか。
  - (4) 避難所で使用する資機材は、避難所ごとに必要分を分散備蓄する必要があると思うがどうか。現状は何か所に分け備蓄しているか。運ぶ手段はどうしているか。
  - (5) 県の防災計画では、大地震などで柏崎刈羽原発から放射線漏れが発生した場合、その30キロメートル圏内から1万人単位の避難者を魚沼市は受け入れることになっている。この大地震で停電、断水が発生すれば、魚沼市民も罹災者となる。どこに、どうやって受け入れるのか。
  - (6) 広域避難者に対する被曝線量の測定、スクリーニング体制はどうか。機材は整っているのか、誰が行う計画になっているのか。
  - (7) 広域避難してきた人たちに対する食糧や飲料水はどうするか。市の備蓄は市民のための物であり、広域避難を想定したものではない。県に対し、資機材や食料備蓄を要請する考えはないか。
  - (8) 市は、今年5会場で防災訓練を計画していたが中止となった。コロナ禍であればなおのこと、避難所設置の手順や必要な資機材を確認するためにも訓練が必要であると思うが、なぜできなかったのか。

## 2番（議席5番）浅井宏昭 一問一答

### 1. 免許を持たない市民の移動手段について

高齢化の進む魚沼市では、自動車等運転免許証返納に対して、申請時1回限り魚沼市乗合タクシー等共通回数券を交付し、乗合タクシーのほか、「市内を走る路線バス」及び「市内のタクシー事業者が運行する通常のタクシー」で使用できるようになっている。

- (1) 免許証返納者に対して魚沼市乗合タクシー等共通回数券（22枚綴10セット）を交付しているが、山間部に住んでいる市民と町場に住んでいる市民を同じ条件で考えているか。
- (2) 申請時一度きりの助成ではなく、継続して支援していける体制を考えていかなければ、山間部の運転免許を持たない市民は自由に移動ができず、経済的な負担も大きくなる。現在の体制をどのように考えているか。

(3) 全国各地でシルバーパスやシニア半わりなど公共交通の助成を取り入れている自治体が多くある。魚沼市でも継続して支援していける公共交通料金の割引に取り組んではどうか。

## 2. 若者の声を取り入れたまちづくり

市長は、所信表明の中で「魚沼市の人口減少に歯止めをかける、減少のスピードを緩くさせるには、若い世代がこの地へ帰って来ることが必要。地域に親しむことによって郷土愛の醸成を図る」と発言していた。

(1) 市長就任以降、魚沼市の人口減少に歯止めをかけたり、減少のスピードを緩くしていく取組を行っているか。

(2) 地元魚沼を愛してもらうために、高校生など若者の観点からまちづくりに参加してもらってはどうか。

## 3番（議席11番）佐藤敏雄 一問一答

### 1. 特別養護老人ホームの待機者対策を問う

魚沼市は第7期介護保険事業計画の中で、市内で不足している介護老人施設の入所定員を50人増加させ、入所待機者対策に取り組む計画とした。しかし、介護人材不足などの理由で引き受ける事業所も見つからず進展していない。

平成31年4月に県が実施した調査では、魚沼市の施設入所希望待機者数は238名となっていたが、少子高齢化が進み、高齢化率が37%を超えている現状からすると、市内の待機者数はさらに増加しているものと考ええる。

(1) 第8期介護保険事業計画では、第7期で達成できなかった計画と同様の計画となっている。これからも待機者数の増加が見込まれる中で計画定員数の上乗せをせず、なぜ第7期と同じ計画としたのか。市長の見解を問う。

(2) 市長は、この問題は大きな課題であり、市内関係法人与施設整備について協議したいと発言していたが、市長就任以降、具体的な進展はあったのか。

(3) 待機者の中には、市内施設への入所を断念し、市外や県外に施設を求め高額な利用料を支払って入所している方が100人以上いると聞いた。十日町市や小千谷市では新たな施設が造られている。市内事業者が施設開設や増床に踏み切れるよう、財政面からの新たな支援も必要と考える。市長の見解を求める。

(4) 市内事業者が介護人材として外国人を入れる支援、研修制度の支援、渡航費用や宿舎の支援など具体的な取組を検討しているか。

(5) 市内の事業所で受けられないのであれば、事業主体を地元以外に求める考えはないか。

## 2. 今泉養鶏団地について問う

今泉養鶏団地は、昭和48年に立ち上げ、長年にわたり地域産業の発展に貢献してきた。しかし、経済状況の変化などで平成27年に全面廃業となり、16棟あった鶏舎のほとんどが倒壊して危険な状況となっている。近くには、保育園や一般住居もあり、台風などによるトタン板飛散の心配や有害鳥獣による被害等も心配され、地元からも市に対して撤去の要望が出されていると聞いている。

この件に関して、元JA関係者が解決に向け努力を重ねてきたが、今現在は交渉等が中断していることから、早期に解決するには、市の関与が不可欠と考える。市は、これまでどのような取組をしてきたのか。また、早期に解決するにはどうしたらよいかと考えるか。市長の見解を問う。

## 4番（議席4番）星 直 樹 一問一答

### 1. 観光政策と地域活性化について

(1) 市内の観光地を中心に、小便器の自動洗浄、洋式温水洗浄便座などトイレの改修を進めてはどうか。

(2) 観光地までの歩道の除草作業を6月中に行い、イベント前の景観整備に力を入れてはどうか。

(3) 魚沼特使の活動を市民に広く告知できるようなホームページの更新、市報で取り上げることが必要と考えるがどうか。

### 2. コロナウイルス感染症による飲食店支援について

プレミアム付商品券の加盟店募集について、市内の商工会加盟店舗で小規模事業者は、市外に本店があっても対象とすべきと考えるがどうか。

### 3. 子どもの一時預かりについて

保育園に通っていない子どもたちの一時預かりのシステムを見直し、子育て支援充実を図るべきと考えるがどうか。

## 5番（議席6番）星 野 みゆき 一問一答

### 1. 旧市立堀之内病院、現在の堀之内医療センターの今後について

(1) 第8期介護保険事業計画における、特別養護老人ホーム50床の整備を進めるとの計画の進捗状況はどうか。

- (2) 令和3年度中に堀之内医療センターとの協議を進めるとのことだが、協議はされているか。
  - (3) 介護施設をいつまでに造り上げるという計画を提示し、市民に知らせていく必要があると思うがどうか。
2. 乗り合いタクシーの充実について
- (1) 周知方法はどのように行っているか。
  - (2) 乗合タクシーが乗り入れていない所への説明は行っているか。
  - (3) 魚沼市地域公共交通計画において、利用者の要望等を情報交換する機会を設けるとしているが、計画の進捗状況はどうか。
  - (4) 魚沼市地域公共交通協議会のメンバーはどのような構成になっているか。

**6番（議席2番）横山正樹** 一問一答

1. 市内スキー場の持続化について
- (1) 市内スキーの価値とその必要性について市長の見解を問う。
  - (2) 市内スキー場を持続化していくためには、市民の意見やアイデア等を生かし、市民がスキー場運営等に関わりを持つことが重要である。  
市民の様々な分野の意見を聴き、その意見を集約していく「市内スキー場検討委員会」（仮称）を設置する必要があると考えるが市長の見解を問う。
  - (3) 市長は、現在稼働している3つのスキー場のグリーンシーズンの利活用として、どのようなイメージを持っているか。
2. JR只見線の観光路線としての利活用について
- (1) 只見線の役割は大きい。1つ目は国策（第二次世界大戦時の資源運搬）、2つ目は地域経済（資源運搬・ダム開発）、生活路線（通学通勤）としての地域貢献。そして3つ目の役割は「観光路線と沿線地域の活性化」と考えるが、市長の見解を問う。
  - (2) 只見線の浦佐駅への乗り入れは、魚沼市の観光戦略の一つとして必要と考える。市はJR東日本本社等への要望は行っているのか。浦佐駅への乗り入れについて市長の見解を問う。

3. 高齢者世帯が安心して暮らせる生活について

- (1) 市内で高齢化率が50%を超えている自治会はどの程度あるか。
- (2) 高齢者世帯の日常生活では、通院や買物、非常事態時の避難、除雪等困難な状況がある。市では、その困難をどのように捉え、どのような対策を行っているか。現段階での取組について問う。
- (3) 人口減少と高齢化により、今までとは違う「今」がある。他人事ではない状況が目の前に来ている。  
市長はこの現実をどのように受け止め、どのような対策や施策が必要と考えているか。

7番（議席12番）遠藤徳一 一問一答

1. 市内インター名称変更について市民の合意形成の図り方は

以前から、議会でも名称変更を望む声があり、一般質問等で取り上げてきた経緯がある。

- (1) 進捗状況はどうか。
- (2) タイムスケジュールはどうか。
- (3) 市内、近隣市外に対する市民アンケートの実施等、市民参画の予定はあるか。
- (4) 市民に名称の募集等行う予定はないか。
- (5) 市長と語る会や各種団体等の会合で、この事を発信して来たか。
- (6) 進めるうえでの障壁となる要因はあるか。
- (7) 政策として捉えたときの費用対効果の展望はどうか。
- (8) コロナ収束の時期と併せ、経済対策の起爆剤とする資源となるか。
- (9) 発展的要素、不安要素も含め市民の合意形成をどのように図るか。

2. 通学路安全対策について

直近の事件として、千葉県において通学路での痛ましい事件が発生した。市は、要望書等も踏まえ危険個所として周知していたが、経済上の問題で予算措置できなかつたと会見している。そのような状況下、菅総理大臣が献花に訪れ、国として取り組む旨の発表をした。

- (1) この痛ましい事件後、市民からの問い合わせはどうか。
- (2) 即座に学校等に通学体制について話等を行ったか。
- (3) 危険個所の把握は点検も含め行っていると聞くが、再度市民の声等を踏まえ点検を行うか。

(4) 国が地方の道路も何とかすると発信している。今魚沼市として予算措置等国や県に働きかける準備はあるか。

【メモ】

**8番（議席3番）佐藤達雄** **一問一答**

1. 新型コロナ対策について

- (1) 4月から5月にかけて市内でクラスターが発生し、感染者の苦しみとともに、医療も逼迫した。陽性者は最大何名となったか。この事例を今後にどのように生かしていくか。
- (2) ワクチン接種について、7月末時点の接種終了割合は、1回目、2回目それぞれどのように想定しているか。ワクチン接種可能年齢から65歳未満の、1回目、2回目の接種終了目途はいつか。
- (3) この時期に市内で感染拡大を起こさないためには、定期的なPCR検査が必要と考える。仕事柄どうしても“密”の状況が発生する、病院や高齢者・障害者施設、保育園や学校の職員や先生方には、定期的なPCR検査を実施すべきと考えるがどうか。
- (4) 現在PCR検査の年齢制限は撤廃されているが、費用は半額個人負担であり、検査の広がりは一時的と見られる。検査を定期的に行うことは、無症状感染者を早く見つけるとともに、モニタリング検査にもなる。そのためには、無料の検査とすることが必要と考えるがどうか。限られた財源を効果的に使う、プール方式もあるがどうか。
- (5) 新型コロナウイルスによる中小事業者、個人事業主の経営状況把握はどのように行っているか。補償実績はどうか。経営圧迫により苦しんでいる人に、手は届いていると考えるか。

2. 小出病院の充実について

小出病院は地域医療の要であり、診療科や病床を増やすなど充実を図って行くべきと考える。

- (1) 魚沼基幹病院開設時に、基幹病院を中心に小出病院など市立病院がこれを支えるという現在の体制がつくられてきた。小出病院は病床数を大きく減らし、既に再編・統廃合は実施されていると考えるがどうか。
- (2) 魚沼市民で県外の病院に入院している人数は把握しているか。国の公立、公的病院の再編・統廃合の考え方は、診療実績が少なく非効率な医療を招いているとして、病院名を挙げている。診療実績は、各症例の総数に基づいており、病床規模が小さい病院ほど低く判定されやすいと考えるが



どうか。

(3) コロナ禍を経験し、医療は効率優先であり方を決めるのではなく、市民の命と健康を守ることを第一に考えるべきである。小出病院は診療科や病床を増やすなどの充実こそ図っていくべきと考えるがどうか。

(4) コロナ禍で診療控えが発生しているのではないか。小出病院の収支はどうか。県や国からの助成はあったのか。

### 3. 特別養護老人ホームの増設について

(1) 特別養護老人ホーム50床の増設に向け、一番の障害になっていることは何か。介護職員の確保の目途が立てば可能となるのか。

(2) 介護には若い人も多く関わっており、雇用対策になる。介護職員の待遇改善の方策はあるか。介護報酬は一律で決まっているが、手当はアップできると考えるがどうか。

9番（議席9番）富永 三千敏 一問一答

1. 地籍調査と森林環境譲与税活用について

近年、全国的に鳥獣被害が多発し住民の財産と生命が危険にさらされている。また、異常気象や大雨による被害も大きく、各地で痛ましい被害が発生している。適切な対策を早急に講じるべき段階になってきた。

そのための対策を実施するには地籍調査を積極的に進め、土地の所有と境界の明確化を図ることが必要である。そして、事業の実施には森林環境譲与税の活用が有効であると考えている。

- (1) 当市の地籍調査の実施状況はどうか。それぞれの実施区域の範囲と面積と実施時期と費用について問う。
- (2) 地籍調査の必要性をどう考えているか。残されている面積はどの程度か。また完了するには何年程度必要か。早める手法はないか。
- (3) 土砂崩れや土石流を防ぐことも必要である。多量の降水量に対応できるよう治山計画を進めるべきだが現状の計画はどのようになっているか。危険個所の調査は実施しているか。
- (4) 各種対策を講じるためには所有者と境界などを確定した地籍調査データを使わなければならない。対策実施に森林環境譲与税の活用を考えているか。森林経営管理制度との関係はどうなっているか。森林環境譲与税の収入状況と現状の活用状況はどうか。今後の計画はどうか。

2. コロナ対策について

新型コロナウイルス感染症の影響で、市でもあらゆる業界に影響を及ぼし、事業の維持継承ができなくなる状況となった。特に飲食店、旅館その他業種の、人の出入りで成り立つ業種の受けている影響は大変なものがある。

経済対策を早急に進めるべきだが、第1段階として感染者をこれ以上出さないための対策が必要である。感染者が出てからの行動でなく、感染者が出る前、つまり症状が出ないうちに感染者を発見することが必要と考える。

- (1) これまでのPCR検査の実施状況はどうか。PCR検査により感染拡大防止の効果はあったと考えるか。
- (2) 症状の現れた感染者を検査するのではなく、下水道水を調べる下水疫学検査を実施し症状が出ていない無症状感染者を早期に発見することで、感染が拡大する前に早急な対策が取ることが可能となる。下水疫学検査を実施してはどうか。特に

病院や福祉施設を対象に下水疫学検査を実施するべきと思うがどうか。

- (3) 感染防止シールド等の助成のほかに、新たな感染防止対策や支援を考えているか。
- (4) 今後の経済対策はどのように進めるか。民間事業所のおかれている状況は一刻の猶予もない。売上げはほぼなく、経費は減らない。市営、市有施設にない最悪な状況下にある。対応や支援策をどのように考えているか。

### 10番（議席15番）高野 甲子雄 一問一答

#### 1. スクールサポートスタッフの配置と拡充について

教職員の多忙化解消策の一環として、スクール・サポート・スタッフの配置体制の整備がなされている。魚沼市の各小中学校における配置状況はどうなっているか。学校現場では配置を望む声が強いと捉えている。さらに新型コロナウイルス感染拡大への対応で教職員の多忙は限界まで来ているのではないか、教育長の見解はどうか。市内小中学校全校に配置すべきと考えるがどうか。

#### 2. 公契約条例の制定について

公契約条例は、従事する建設労働者や委託労働者の賃金の最低額を入札や落札の条件として、自治体の入札や契約の中に定めていこうとするものである。

魚沼市は冬の降雪、大きな河川と山に囲まれた地形であり、常に自然災害と背中合わせである。建設業はなくてはならず、建設業界の人材確保は喫緊の課題であり、そのための賃金の保証条例である公契約条例は魚沼市にこそ必要な条例と考える。公契約条例の制定の考えはないか。

### 11番（議席10番）志田 貢 一括

#### 1. 再生エネルギー普及促進について

当市では、小規模のものが中心であり、固定価格買取制度を活用した大規模のものは、過去の事例を含めても少ない。

社会全体という視点で、低炭素・循環型社会を構築していくためには、ある程度規模の大きなものが必要と考える。固定価格買取制度を活用する方策を考えるべきと思うがどうか。

#### 2. 室内プールの設置について

要望があるようだが、市の考えはどのようなものか。

3. 各計画について

財政計画など各計画の進捗が遅れていると感じる。予見可能な計画にしてほしいが考えはあるか。進捗状況はどうか。

4. 選挙投票率の詳細発表について

各選挙において投票率の低下が顕著である。地区別、年代別の投票率の詳細を有権者及び選挙立候補者が共有することで、投票率の増加が期待できると思うがどうか。

**12番（議席7番）大 桃 俊 彦** **一問一答**

1. 新ごみ処理場建設計画について

3月に行われた全員協議会において、二市一町で進めてきた新ごみ処理場建設計画の枠組みを方針転換し、魚沼市単独で進めるとの報告を受けた。既存施設の機能回復工事費は予算に計上されているが、今後の計画については述べていない。

- (1) 当市単独での処理に踏み切った以上、新ごみ処理施設建設計画の策定が必要と考える。施設建設位置、処理方法、処理能力、処理体制等についてどのように考えているか。
- (2) 多額の経費を投資し、大規模機能回復工事を行っても数年しかもたないと考えるが、今後の改修計画はどのようなになっているか。
- (3) 合併特例債延長に伴い、事業認定と期間内に取り込むことができるのか。
- (4) 現在のごみ処理場がある地区にはどのような説明がされたのか。

2. 湯之谷公民館図書室について

旧湯之谷庁舎の改修も終了し、湯之谷地域にも図書室が開設され利用されている。

- (1) 現在の蔵書数は充実していると考えるか。
- (2) 蔵書内容は、利用者の状況を把握して決めているか。
- (3) 利用者の意見をどう取り入れているか。また取り入れようとしているか。
- (4) 学生らが利用する場所がないように感じるが、検討したか。

3. 旧湯之谷地区内の強固な岩盤利用について

中越地震にも耐え抜いた湯之谷地域の強固な岩盤は、魚沼市にとって利用価値の高いものとして検討するべきと考える。

- (1) 市長は、この強固な岩盤について考えたことはあるか。
- (2) 市長はこの岩盤について、どのような活用方法があると考えるか。

#### 4. 畜産の悪臭公害対策について

湯之谷地域にある養豚団地からの悪臭問題については、先般行われた市民福祉委員会の中で、5年以内には改築の予定があるとの話があった。

- (1) 改築するとの話は、その後どのようなようになったか。
- (2) 悪臭の改善方法について、市に提案されているとの話を聞いた。どのように検討しているか。
- (3) 長期に渡る悪臭公害問題に対し、どう取り組み、どうあるべきと考えるか。

#### 13番（議席17番）本田 篤 一括

##### 1. 所有者不明土地対策は早急に

所有者不明の土地は不動産登記簿を見ても、現在誰が持っているか分からない土地で、公共事業や災害復旧、民間の土地取引の妨げとなっている。

- (1) 国土交通省の調査によると、全国の土地の2割で所有者が分からないとのことであるが、当市における所有者不明の土地の現状はどうか。
- (2) 市としても、所有者不明土地対策は早急に対応すべきと考えるがどうか。
- (3) 政府は、所有者不明土地問題を解決するため、民法など関連法の改正案を決めた。これにより、土地の相続や所有者の住所を変更した際の登記申請を義務化し、違反した場合は過料を科すことができ、また管理が難しくなった土地を国庫に返納できる制度を新設し、持ち主が分からない土地の管理を強化することができるようになる。自治体への負担も大きくなると思われるが、市として、どのような方法で対応すると考えているか。

#### 14番（議席8番）大平 恭児 一問一答

##### 1. 投票所見直しについて

- (1) 投票所が遠くなり、投票所に行けない人が多くなっている。これまで投票場所の集約を行ってきたが、それを見直し、身近な所で投票できるようにするべきと考える。移動投票所の本格的な実施を含め、その認識を問う。
- (2) 投票所に行く際のバスや乗合タクシーなど手配も考え、全ての有権者が行けるような整備が必要である。見直しを行う考えはあるか。

(3) 市民への選挙に対する啓発は、今後の市政を考えていくときに非常に重要である。身近な市長選挙、市議会議員選挙などにおける投票環境の整備、市民に各候補の政策などが分かりやすく伝えられる方法など有識者や市民などで検討すべきと考えるがどうか。

## 2. 住民健診会場見直しについて

コロナ禍で保健福祉の重要性が叫ばれている。住民健診は早期発見早期治療に欠かせず、誰もが身近で受けられる体制が必要である。

(1) 健診会場の集約について、高齢者や障害者などで移動が困難な状況を見ると移動支援は欠かせない。バスや乗合タクシーなど無料で送迎すべきと考えるがどうか。

(2) 健診会場が遠くて諦めた方もいる。健診は問診などを通して健康観察を行うのに大切であり、地域の身近な場所で健康診断すべきと考える。会場の集約を見直す考えはないか。

(3) 住民健診や健康に対して不安なこと、住民の意見や要望を丁寧に聞き取ることなど実態把握を行っているか。

## 3. 精神医療費助成について

精神障害者の家族の負担は非常に重く、精神医療費助成額を拡充して欲しいとの声を多く聞いている。

(1) 精神障害者医療費の助成額の拡充や無料化に踏み出す考えはないか。

(2) 精神障害者医療費助成対象は精神科だけでなく、内科等ほかの診療についても上乘せして助成を行う考えはないか。

(3) 国や県に精神医療費助成の財政支援を要求してはどうか。

## 4. 重度心身障害者医療助成拡充について

(1) 長年、精神障害者の方々が重度心身障害者医療費助成の対象者に精神障害2級と3級にも適用することを求めている。切実な要求であり検討すべきと考えるがどうか。

(2) 適用しない最大の要因は何か。

## 5. 通院で乗合タクシーの活用を

高齢者や障害者にとって、通院にかかる交通費の負担や乗り継ぎなどは年々重くなっている。多くの住民から改善をしてもらいたいという要望を聞く。

乗合タクシーをもっと活用して、市内どこからでも低額で小出病院や魚沼基幹病院などに通える仕組みをつくるべきと考えるがどうか。

## 15番（議席13番）渡辺 一 美 一問一答

【メモ】

### 1. 魚沼市のスポーツ推進施策について

魚沼市は雪国であるが、第2次魚沼市スポーツ推進計画は雪国の特徴を生かした計画になっているとは思えない。

議会が4月に市長へ提出した提言書の中で、雪国スポーツ振興条例（仮称）等を制定するよう提言しているが、スキー場だけでなく、これまで市民が親しんできたスポーツであるボウリング及び水泳を楽しめた民間施設が閉鎖解体された。これらのスポーツもまた、冬季間を含め市民の健康増進に寄与してきた。

第2次魚沼市スポーツ推進計画の基本理念にある「誰でも」「いつでも」「どこでも」そして「いつまでも」市民が自主的・自律的にスポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現のため以下について問う。

#### （1）スポーツ振興条例の制定

雪国魚沼市の特徴を十分に生かしながら、生涯学習、健康福祉施策だけでなく、観光施策、学校教育施策としての側面が盛り込まれた条例をつくる必要があると考えるがどうか。

#### （2）総合スポーツセンターの建設

室内プールやボウリングレーンを備えた施設を小出郷福祉センターの跡地に建設し、小出郷体育館と一体とした総合スポーツセンターとして民間委託をしてはどうか。

また、民間が経営する場合の使用料は1時間5,000円、あるいは、それ以上に設定しなければ、管理費・運営費は捻出できない、減価償却費まで使用料に反映させなくても、せめて指定管理料を賄うくらいの体育施設使用料を設定し、現在の使用料と同額となるよう差額を市が補助する仕組みに変え、学校施設の開放も民間委託を可能にして同様の考え方をするなど、市民サービスが目に見える行革をする必要があると考えるがどうか。

#### （3）魚沼市の雪国文化として、アルペンスキーの技術の継承

今までどおりの財政支援では、スキー場は残ってもスキー人口の減少は止められない。スキー人口を増やす財政支援への転換が必要である。

「スキー場を考える議員有志の会」が市内の小中高校の生徒・保護者にアンケートを実施した際、多くの保護者がスキー用具等の経済的負担を訴えていた。また、スキー授業の回数が少ないことで、スキー用具をそろえない家庭が増えていることも明らかになった。魚沼の子ども達が中学校を卒業するまでに、スキー検定の3級や2級を取得でき

るよう小中学校のアルペン授業の推進のための財政支援が必要と考える。

- ①週1回以上の授業を確保してはどうか。
- ②スキー授業に係る費用の保護者負担の軽減策を考えてはどうか。
- ③スキー授業の指導員を市の予算で確保してはどうか。
- ④魚沼市民対象や観光客を対象にリフト使用料を補助してはどうか。

## 2. 堀之内地域の施設再編について

堀之内地域の施設再編は、旧堀之内子育て支援センターと旧堀之内病院の解体後どのように再編するかが鍵であると考える。

- (1) 堀之内医療センターの機能を社会福祉協議会堀之内支所の場所に移転してはどうか。
- (2) 堀之内老人憩いの家の機能と堀之内地域包括支援センター機能を併せ持つ施設を町の中心地である旧堀之内子育て支援センター跡地に建設してはどうか。
- (3) 旧堀之内病院跡地に、旧療養病棟とともに、特別養護老人ホームを建設してはどうか。